

救急☆3分トレーニング

Vol. 9

救急課 高度救急研修センター

つぎのために水分補給をしよう



汗をかいたら塩分を摂ろう



この「救急☆3分トレーニング」は、救急隊員等が日ごろ疑問に思っていることや、知っているようで知らないこと、何となく他人に聞くのが恥ずかしいことなどを、分かりやすく、3分以内で解決するトレーニングです。新しい隊員さんだけでなくベテランさんも、出動の合間にササッと御覧いただき、今後の救急活動に役立ててください。

★運命の分かれ道「呼吸の確認」



一般市民の人が、傷病者に対し心肺蘇生を開始するかどうかは、「反応」と「呼吸」の有無で判断します。しかし、「呼吸」の有無の確認は難しく、救急隊員でも分かりにくいときがあります。

心肺蘇生法（G2015）では、呼吸の確認に時間を費やし、心肺蘇生の開始が遅れないよう、呼吸の確認時間は10秒以内とし、胸とお腹の動きを見て判断します。口を見て判断してはいけない理由は、「死戦期呼吸」を「呼吸あり」と誤って判断してしまうことが非常に多いからです。

死戦期呼吸とは、胸やお腹が動かず、口をパクパクさせている状態で、呼吸はしていません。「呼吸なし=心停止」で心肺蘇生が必要です。

反応なし

- ◎肩をやさしく叩き、大きな声で呼び掛けて
 - ・目を開けない
 - ・動きがない
- ◎ケイレンしている
(判断に自信が持てない場合は、心停止の可能性を考えて行動する。)

+

呼吸なし

- ◎胸やお腹が動かない
- ◎普段どおりの呼吸でない
(死戦期呼吸)
- ◎分からない
- ◎判断に迷う

= CPR+AED

心肺蘇生の開始の判断として、呼吸の確認は非常に重要なポイントになります。119番通報受信時に呼吸状態の問い掛けに対し、通報者から明確な答えが返ってこないとき、心停止である可能性は高いです。